

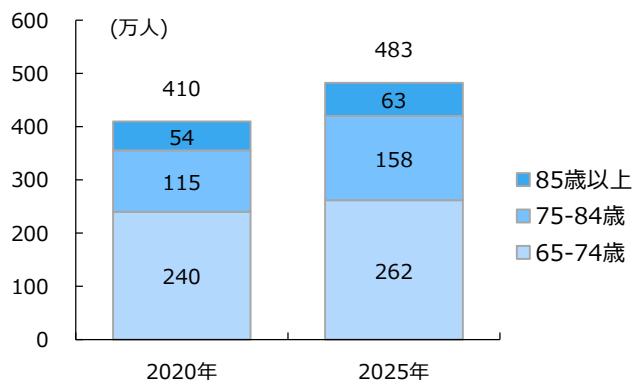
「多死社会研究シリーズ No.2」

未婚率の上昇により身寄りのない高齢者は今後さらに増加の見通し

— 令和7(2025)年国勢調査 人口等基本集計結果より —

- (1) 先日発表された2025年の国勢調査人口等基本集計結果をもとに推計したところ、65歳以上で子のいない人（推計値）は、2020年時点の410万人から、2025年に483万人へと増加（図表1）。ボリュームが大きい団塊世代を含む75～84歳における伸びが大きい。高齢者人口に占める子のいない人の割合は11.4%（2020年）から13.4%（2025年）に2ポイント上昇。
- (2) 2025年に亡くなった65歳以上の人（146万人）のうち、子がいなかったとみられるのは、18.9万人。このうち、子・配偶者・甥姪ともいない人は4.6万人と推計される（図表2）。
- (3) 65歳以上の死亡者に占める未婚者の割合は特に男性において上昇傾向。2025年に亡くなった65歳以上の男性のうち未婚者は8.9%に上る（図表3）。この数字は1995年の50歳時未婚率が男性は9.0%、女性は5.1%であったこととほぼ対応する（図表4）。すなわち、50歳時未婚率は、約30年後に亡くなる人に占める未婚者の割合を予見するものと考えられる。
- (4) 50歳時未婚率は上昇傾向にあり、2025年は男性で29.9%、女性は19.6%であり、30年後、未婚で亡くなる人が大きく増加することを予見させる状況。未婚者の大多数は子がおらず、火葬や納骨、死後の家財処分事務の執行者が見つからない可能性が高い。死後事務委任など、対応の仕組みの普及が求められる。

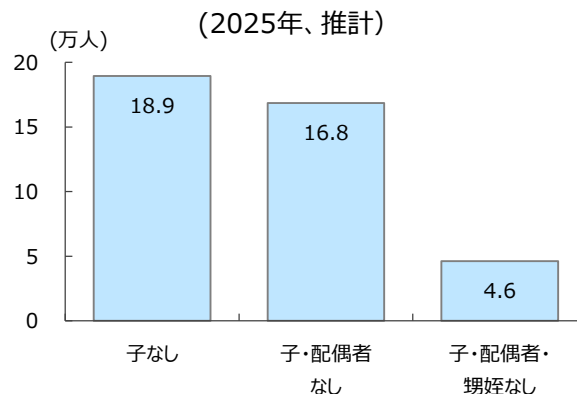
(図表1) 65歳以上で子のいない人（推計）



(資料) 総務省統計局『国勢調査』などをもとに作成

(注)配偶関係別人口に、それぞれ子のいる率(仮定)を掛けて算出

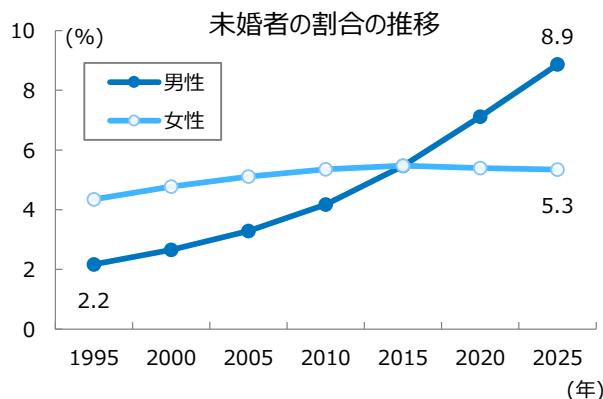
(図表2) 65歳以上の死亡者の親族の状況



(資料) 厚生労働省『人口動態調査』などをもとに作成

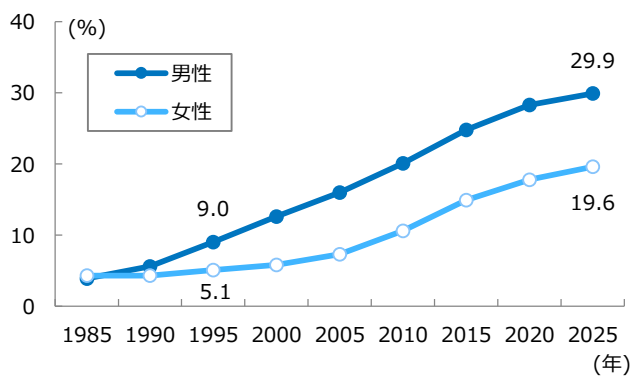
(注)配偶関係別死亡数に、それぞれ子のいる率(仮定)を掛けて算出
甥・姪は本人のきょうだいの子。配偶者の甥・姪は含まない。

(図表3) 65歳以上死亡者に占める



(資料) 厚生労働省『人口動態調査』をもとに作成

(図表4) 50歳未婚率の推移



(資料) 総務省統計局『国勢調査』をもとに作成

【ご照会先】調査部 主任研究員 岡元真希子 (okamoto.makiko@jri.co.jp , 080-2406-1838)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来るとされる資料に基づいて作成されたものです。情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。